

ORICON

2014年3月期 第2四半期決算説明会

2013年11月15日

2014年3月期 第2四半期決算の概要

- スマートフォン向けの売上が着実に拡大
 - スマートフォン向け音楽配信サービス : 前年同期比33.7%増
 - スマートフォン向けサイトの広告販売 : 前年同期比65.5%増
- フィーチャーフォン向け着うたフル・着うたの売上が減少（着メロは増加）
 - 着うたフル : 前年同期比36.0%減
 - 着うた : 前年同期比41.2%減
- 顧客満足度(CS)ランキング連動型広告は堅調に推移（前年同期比2.7%増）
- 当期よりビッグデータ関連への投資を積極的に実施(当該投資に関わる営業費用:26百万円)
- CSR活動の一環として太陽光発電事業を開始(売電収入:13百万円)
再生可能エネルギー分野での産学連携による取り組みを開始(東工大・和田研への奨学寄付:5百万円)

着うたフル・着うたの減収額の影響が大きく

連結業績

売上高	: 2,570百万円	(前年同期比 6.9%減 190百万円減)
営業利益	: 306百万円	(前年同期比 2.4%減 7百万円減)
経常利益	: 288百万円	(前年同期比 1.5%増 4百万円増)
四半期純利益	: 153百万円	(前年同期比 8.7%増 12百万円増)

連結損益計算書



(単位:百万円)	2013年3月期 第2四半期累計	2014年3月期 第2四半期累計	増減	
			金額	増減率
売上高	2,760 (100%)	2,570 (100%)	▲190	▲6.9%
売上原価	1,622 (58.8%)	1,432 (55.7%)	▲189	▲11.7%
差引売上総利益	1,138 (41.2%)	1,137 (44.3%)	▲1	▲0.1%
販管費	825 (29.9%)	831 (32.4%)	6	0.8%
営業利益	313 (11.4%)	306 (11.9%)	▲7	▲2.4%
経常利益	284 (10.3%)	288 (11.2%)	4	1.5%
税金等調整前 四半期純利益	273 (9.9%)	292 (11.4%)	18	6.8%
四半期純利益	141 (5.1%)	153 (6.0%)	12	8.7%

主な減収要因

- 着うたフル [294百万円減(36.0%減)]
- 着うた [50百万円減(41.2%減)]
- 雑誌事業 [101百万円減(16.4%減)]

主な増収要因

- スマートフォン向け音楽配信
[51百万円増(33.7%増)]
- バナー型・タイアップ型広告等
[53百万円増(22.8%増)]
- 着メロ[118百万円増(88.7%増)]
⇒昨年11月にセガカラMelody事業を
譲受したことによるもの
- ソーシャルゲーム事業
[32百万円増(40.7%増)]
- 太陽光発電事業[13百万円]

○モバイル事業の売上減少に伴い、
音源使用料が156百万円減少。

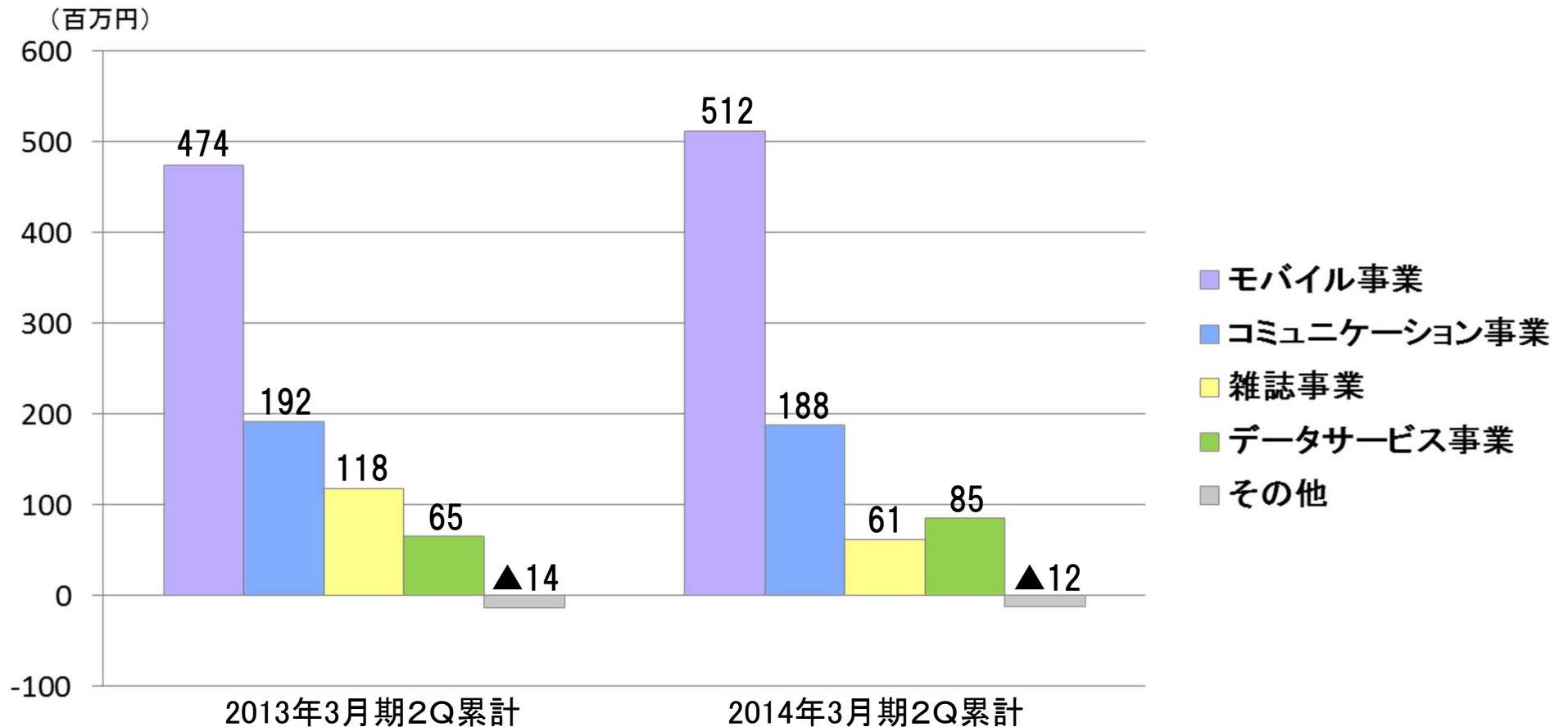
○ビッグデータ関連の投資に関わる費用:
26百万円

○再生可能エネルギー分野における
産学連携の取り組み:
東工大・和田研への奨学寄付 5百万円

報告セグメント別売上高



	2013年3月期 第2四半期累計	2014年3月期 第2四半期累計	増減	
			金額	増減率
(単位:百万円、百万円未満を切捨て)				
コミュニケーション事業	517	563	45	8.8%
WEB広告販売	474	533	59	12.5%
CSランキング連動型広告	242	248	6	2.7%
バナー型広告・タイアップ型広告等	232	285	53	22.8%
データ販売・コンテンツ販売等	43	30	▲13	▲31.1%
モバイル事業	1,277	1,095	▲182	▲14.3%
フィーチャーフォン向け	1,124	890	▲233	▲20.8%
着メロ	133	251	118	88.7%
着うた	122	72	▲50	▲41.2%
着うたフル	816	522	▲294	▲36.0%
情報系等	51	44	▲7	▲14.3%
スマートフォン向け音楽配信	152	204	51	33.7%
雑誌事業	618	516	▲101	▲16.4%
データサービス事業	266	268	2	0.8%
その他(ソーシャルゲーム事業等)	80	126	45	56.8%
売上高合計	2,760	2,570	▲190	▲6.9%



- モバイル事業は、着うたフルと着うたの売上減少による減益の影響があったものの、利益率の高い着メロの売上が増加したことによる増益効果があり、セグメント利益は増加。
- コミュニケーション事業は、WEB広告の増収による増益効果があったものの、昨年8月に事業撤退した法人向けフィーチャーフォン用コンテンツ販売の売上が発生しなかったことが影響し、セグメント利益はほぼ横ばい。

当社グループにおいて、スマートフォンへの対応を強化・推進させるため、経営資源の効率的かつ効果的な活用を図り、展開力と競争力を向上させる目的で携帯電話向け音楽配信サービスを行う 株式会社 oricon ME と、「ORICON STYLE」サイトの運営を行う オリコンDD株式会社 とを合併させ、新・株式会社 oricon ME が発足。(2013年4月1日付)

前第2四半期累計期間
＜旧・oricon ME + オリコンDD＞

売上高 1,795百万円

営業利益 666百万円



当第2四半期累計期間
＜新・oricon ME＞

売上高 1,658百万円(前期比7.6%減)

営業利益 701百万円(前期比5.2%増)

※ニュース配信事業の収益を含む

(単位:百万円)	2013年3月期 第2四半期累計	2014年3月期 第2四半期累計	前年同期比 増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	411	360	▲51
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲123	▲296	▲173
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲227	▲2	▲224
現金及び現金同等物の増減額	61	61	0
現金及び現金同等物の期首残高	903	910	7
現金及び現金同等物の四半期末残高	964	971	7

■ 2014年3月期第2四半期累計期間においては、ビッグデータ関連への投資を積極的に行ったため、前年同期と比べ、投資活動による資金の減少額が増加。

連結貸借対照表



(単位:百万円)		2013年3月期末	2014年3月期第2四半期末	増減
資産合計		4,454	4,509	54
	流動資産	2,263	2,167	▲96
	有形固定資産	536	574	38
	無形固定資産	1,152	1,254	101
	投資その他の資産	495	507	11
	繰延資産	6	5	▲1
負債合計		2,429	2,454	24
	流動負債	1,869	2,091	221
	固定負債	560	363	▲196
純資産合計		2,025	2,054	29
	株主資本	2,009	2,044	35
	その他の包括利益累計額	0	▲1	▲2
	新株予約権	14	10	▲3

- 総資産は54百万円増加。ビッグデータ関連の投資によって有形固定資産59百万円＋無形固定資産68百万円が増加。
- 負債合計は24百万円増加。短期借入金の増加、社債及び長期借入金の減少が、主な変動要因。
- 純資産は29百万円増加。四半期純利益153百万円を計上したものの、配当金117百万円の支払があったため。自己資本比率は45.3%となり、前期末比0.2ポイント上昇。(前年同期末と比べれば1.7ポイントの上昇)

連結業績予想

- 当社グループを取り巻く外部環境において、特に、インターネット、音楽エンタテインメントの分野における変化がさらに激化。
- 当期において、ビッグデータを活用したサービスの開発、再生可能エネルギー分野における事業の立ち上げなど、新たな取り組みを開始。

当期においては、通期の連結業績予想を合理的に算出することが困難であると判断いたしました。

配当予想

第2四半期連結累計期間の実績値、今後の資金需要と内部留保の確保などを総合的に判断。

当期の年間配当金を前期と実質的に同水準に据え置き、期末配当金の予想額を1株につき8円にすることを決定いたしました。

(前期の期末配当金は1株につき800円でしたが、2013年4月1日付で普通株式1株を100株にする株式分割を行っており、これを考慮し、当期の期末配当金の額を1株につき8円としております。)

伸長事業の状況

顧客満足度(CS)ランキング連動型広告

- 昨年10月以降、3ジャンル(歯科の自由診療分野)を終了させ、新たに5ジャンル(来店型保険ショップ、食材宅配サービス、ネットスーパー、海外旅行保険、オンライン英会話)を追加
⇒ 終了ジャンルの減収分を補い、安定的に収益を拡大<売上:前年同期比2.7%増>
- SEO効果も睨み、各ジャンルのコンテンツを継続的に拡充
- データ販売も堅調

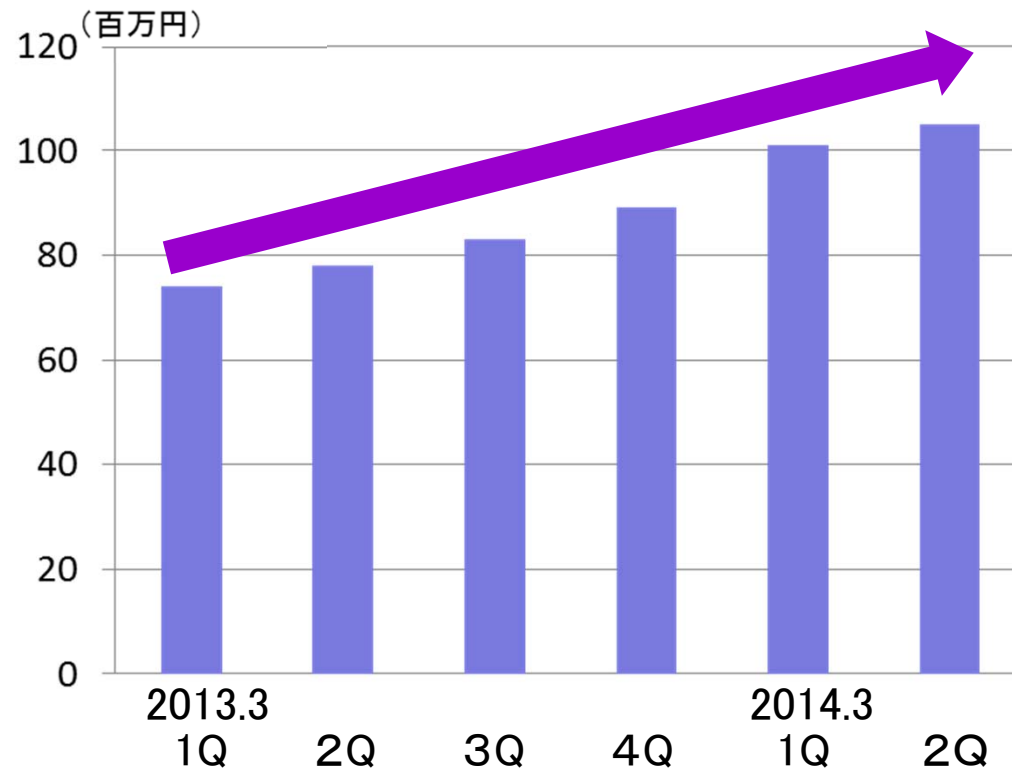
スマートフォン向け「ORICON STYLE」サイト

- 閲覧数が増加し、サイトに掲載する広告のパフォーマンスも上昇してきたため、広告販売が好調<売上:前年同期比65.5%増>
- サイト全体の視認性を中心に、ユーザビリティの向上に注力
- 当社グループのスマホ向け音楽配信サービス「オリコンミュージックストア」への誘導を強化





「オリコンミュージックストア」の売上高推移



- 月次ベースで着実に売上が増加。
- ブラウザー上で楽曲のダウンロードと課金決済を行う仕様に変更したことにより、専用アプリのダウンロードが不要になり、スマホ向け「ORICON STYLE」サイトから誘導されてくるユーザーが増加。楽曲購入促進に寄与。

継続的にサービスを拡充

◎音楽ビデオクリップの販売を開始(2013年10月～)

◎OpenIDへの対応を開始(2013年10月～)

これまでは通信キャリアのIDにのみ対応

利用できるIDを追加することでユーザーの利便性が向上

「Facebook ID」「Twitter ID」「Google ID」「Yahoo!JAPAN ID」を利用可能に
(これらのIDを持っていれば新たなアカウントの作成が不要になりました。)

◎パソコン(Win/Mac)および iPhone への対応を開始
(2013年12月～) <予定>

- パソコン(Win/Mac)で楽曲のダウンロード(購入)が可能になります。
- iTunesがインストールされたパソコン(Win/Mac)でダウンロードした楽曲については、パソコンとiPhone・iPadを同期させることによって、iPhone・iPadで聴くことができるようになります。
- iPhone・iPadへの直接ダウンロードを可能にするアプリを現在、準備中。



OpenIDに対応した新しいログイン画面

当期より開始した新たな取り組み

旧来より行ってきたエンタテインメントデータベースを利用する事業を拡充・発展させるため、ビッグデータを活用して新たなサービスを開発・開始させるべく、2014年3月期において、ビッグデータ関連の投資を積極的に実施。

- ビッグデータを高速で処理・分析することが可能なソフトウェア(SAS® Office Analytics)とサーバー(データ容量:32テラバイト、最大毎秒8.6ギガバイトのデータの検索が可能)を導入。
- 機械学習、テキストマイニング、クローリングなどの研修を全社員を対象として実施。
- 統計学の専門家であり、金融分野での実務経験を持つデータサイエンティスト数名を採用。
⇒当社内にデータサイエンス部を新設



ビッグデータを活用するサービスやソリューションが増えてくることが見込まれるため、2013年10月23日開催の取締役会で、これらを担う会社を当社の完全子会社として設立することを決議。

<新会社商号:オリコンDサイエンス株式会社 設立年月日:2013年12月1日(予定)>

ビッグデータを活用する新たなサービスの第一弾として、日本株式の運用モデルの開発に着手

2013年7月

明治大学総合数理学部乾孝治教授(金融工学が専門)との産学連携の共同研究を開始

国内情報ベンダー

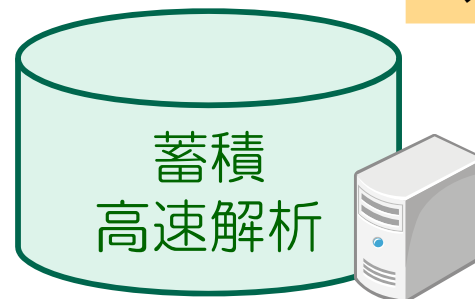
過去および現在の、
全上場会社の、

- ・企業情報
- ・財務データ
- ・決算情報
- ・株式取引情報
- ・レーティング情報

国内外の、

- ・マクロ経済情報
- ・債券情報
- ・指数情報

etc



 ORICON

乾教授の
・株式運用モデルの開発経験
・知見 / ノウハウ

<融合>

独自の
運用モデルを
開発

・システム設計(解析基盤構築)
・データ整備
・運用実務

 ORICON

今後、共同研究によって開発された運用モデルを活用して、当社が新たなサービスの提供を開始

予定している個人向けサービスの概要

- ・最適ポートフォリオの提示（保有銘柄の最適な構成比率を提案）
⇒基本的なサービスは無料で提供し、さらに利便性を高めたサービスを有料会員向けに提供
- ・株式運用シュミレーションゲーム、教育用アプリの提供

現在、Google社の検索サービスにおいて「ネット証券」で検索を行うと、当社グループの「オリコン顧客満足度ランキング・ネット証券ランキング」のページが検索結果の第1位に表示。このページより、当新サービスに個人ユーザーを効率良く誘導することができるため、ユーザー獲得を行う上で、優位なポジションで当新サービスを開始することが可能。

※金融機関など法人向けにサービスを提供することも視野に入れ、サービス開発を推進

- ・CSR活動の一環として、太陽光発電事業をスタート。
 - ・2013年7月13日より、九州電力に売電を開始。
(第2四半期の売電収入:13百万円)
- ⇒今後、20年間、安定的に売電収入が得られる見通し。
(年間44百万円～48百万円になる見込み)



長崎県大村市の太陽光発電所

政府が目指している電力の自由化を睨み、再生可能エネルギーの分野で有望と考えられる技術や製品の開発に経営資源を投入するなど、当該分野において、さらに踏み込んだ事業展開を図っていくことにしました。

今後、安定的に売電収入が得られますので、売電によって生じるキャッシュ・フローの範囲内で、産学連携による研究開発や他社との協業などを進めていく方針といたしました。

「産学連携の第一弾」

東京工業大学大学院理工学研究科応用化学専攻・和田研究室との共同研究
＜2013年10月31日付で共同研究契約を締結＞

研究内容: マイクロ波の再生可能エネルギー分野への応用 他
(詳細については非公表)

和田研究室 和田雄二教授

- ・日本電磁波エネルギー応用学会理事長
- ・国内におけるマイクロ波化学の第一人者
- ・マイクロ波の特徴である「内部加熱」「選択加熱」「高速加熱」を利用し、物質製造プロセスにマイクロ波を応用する研究を推進

※和田研究室には、別途、学術研究支援の目的で2013年9月に奨学寄付5百万円を納入

「株式会社StoM との資本業務提携」

マグネシウム発電の研究者である東北大学名誉教授小濱泰昭氏が設立した株式会社StoMと、当社グループで太陽光発電事業を担っているオリコン・エナジー株式会社(当社完全子会社)が2013年11月1日付で資本業務提携契約を締結。

⇒オリコン・エナジーが、StoM社が行う第三者割当増資を引き受ける(取得価額:1,012万円)。
株式取得後の株主構成は、小濱泰昭89.7%、オリコン・エナジー10.3%。

⇒マグネシウム関連製品の製品化と知的財産の創出を協同で実施。

小濱氏は、海水中に無尽蔵にあるマグネシウムを太陽光によって製錬し、得られたマグネシウムを燃料電池として活用することで、CO2排出の削減とエネルギー循環社会の実現を目指しています。

すでに、マグネシウム燃料電池を搭載した電動バイクで長距離の運転実験を行うなど、数多くの業績を上げられています。



マグネシウム燃料電池を搭載した電動バイクの走行実験を行う小濱名誉教授

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後の様々な要因により大きく異なる可能性があります。

※ 着うた、着うたフルは、株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメントの登録商標です。

※ その他記載されている製品名、サービス名などは、該当する各社の商標または登録商標です。

オリコン株式会社

IR用ホームページ

<http://www.oricon.jp/>